



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

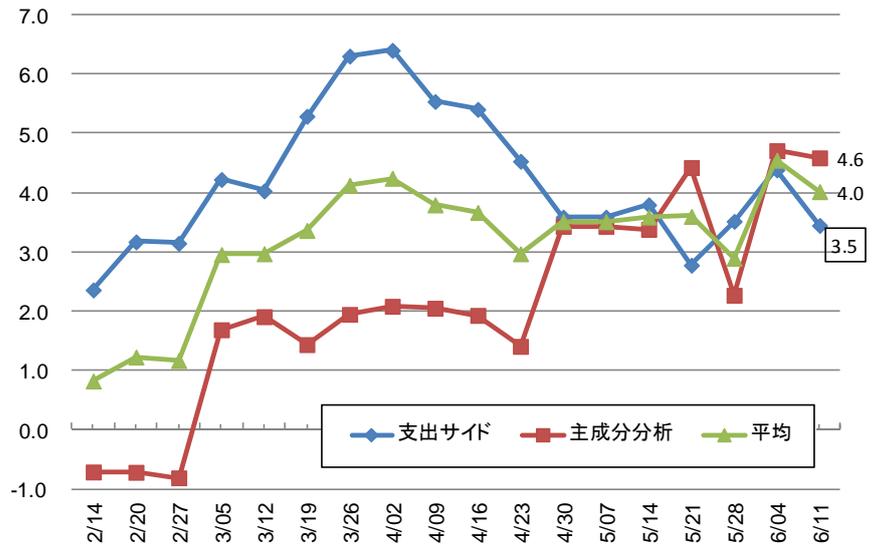
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年6月11日)

ポイント

- ▶先週は、5月の景気ウォッチャー調査、4月の景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況を更新。また1-3月期GDP2次速報値が発表された。
- ▶1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.7%となり、1次速報値から0.6%ポイント上方修正された。成長率上方修正の主要因は民間企業設備の上振れである。
- ▶5月の景気ウォッチャー現状判断DIは2ヵ月連続で前月比悪化。欧州危機や電力供給懸念といった要因から景気の現状判断は悪化している。
- ▶4月の経常収支黒字(季節調整値)は前月比-63.3%縮小し2ヵ月連続のマイナス。この結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は前期比横ばいと先週の小幅拡大から下方修正された。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を、内需は引き続き拡大するが純輸出は横ばいとなるため前期比年率+3.5%と予測する。先週の予測(+4.4%)から下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%，前期比年率換算)



<5月の景況感は2ヵ月連続の悪化、4-6月期の実質純輸出は横ばいへ>

先週(6/4-6/8)は、5月の景気ウォッチャー調査、4月の景気動向指数、情報サービス業売上高及び国際収支状況を更新。また8日に1-3月期GDP2次速報値が発表された。これらのデータは、民間企業設備、純輸出の予測値に影響を及ぼす。

GDP2次速報値によれば、1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.7%となり、1次速報値(同+4.1%)から0.6%ポイント上方修正された。実質GDP成長率上方修正の主要因は民間企業設備の上振れである。

5月の景気ウォッチャー現状判断DIは前月比3.7ポイント低下し47.2となった。2ヵ月連続の悪化。欧州経済危機によるや株安・円高の加速、また電力供給の懸念が強まったことが悪化の背景にある。景気の現状判断は悪化している。

4月の経常収支は3ヵ月連続の黒字を記録したが、3,338億円と小幅にとどまり前年同月比-21.2%縮小。所得収支黒字幅は前年比拡大したものの、貿易・サービス収支は2ヵ月ぶりに赤字に転じたためである。季節調整値の経常収支黒字は前月比-63.3%縮小し2ヵ月連続のマイナス。この結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は前期比横ばいと先週の小幅拡大から下方修正された。

今週(6/11)のCQM(支出サイド)は、先週発表されたデータを更新した結果、4-6月期の実質GDP成長率を、内需は引き続き拡大するが純輸出が横ばいとなるため前期比年率+3.5%と予測する。先週の予測(+4.4%)から下方修正された。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550